

これからどのような
英語教育が求められるのか

－吉田研作先生のお話から考えたこと－

文教大学 教育学部

金 森 強



◇ Fish Bowl Model からの脱却

MINDSET ⇔ 評価

チンパンジーを森に返す場合 生きるための術 教師の多忙さが課題

◇ Digital で「つむ（紡）ぐ」

ONLINE ⇔ OFFLINE (学び舎)

良い物だけを選んで 紡ぎ、織りなす 教室の活動を豊かにするコンテンツを

◇ 聴 き 解 く 力

音声言語 ⇔ 文字言語

文字言語中心の日本の教育 聴くことから統合的な活動へ 母語教育も同じ

◇ 小学校 評価の不思議

言語活動例が高度すぎる

(中学校も同じ)

現場・実態との乖離

現小学校3年生が中学校3年生になった時と今年では異なるはず

文部科学省国立教育政策研究所

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

小学校学習指導要領「2 内容〔第5学年及び第6学年〕」の〔知識及び技能〕における「(1) 英語の特徴やきまりに関する事項」に記されている「音声」の特徴を捉えて話すことについては、それ自体を観点別評価の規準とはしないが、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材を活用したり、デジタル教材等を活用したりして適切に指導を行う。

カタカナ発音が許される？ 指導と評価の一体化？ 要修正版